ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.									

シートNO.

ボーリング名	BP.8	調査位置						北　緯	36 ° 28 ' 2.4900 "
発 注 機 関	栃木県　安足土木事務所			調査期間	2010-08-10 ～ 2010-08-11			東　経	139 ° 30 ' 32.6000 "
調 査 業 者 名		主任技師		現　場 代 理 人		コ　ア 鑑 定 者		ボーリング責任者	
孔 口 標 高	210.64 m	角度	180° 上 下 90° 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平 0° 90° 0.00 °	使用機種	試 錐 機 / ハンマー落下用具
総 掘 進 長	10.00 m								エンジン / ポ ン プ

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
	210.34	0.20	0.30		表土 (SF)	黒	非常に緩い		軟質な有機質火山灰土である。		08/10 0.80
	209.64	0.70	1.00		シルト質砂礫 (GSM)	暗褐			礫はφ10mm内外の亜円～亜角礫を主体に最大φ20mm程を混入する。礫間は多量の細粒土分と細～中砂分で緩く充填される。		
1					砂質シルト (MS)	暗褐			土は有機質を強く帯び、軟らかい。全体に細砂分を含有すると共に、稀にφ5～10mmの礫分を認める。		
2					礫混りシルト質砂 (SM-G)	暗灰	緩い		細～中砂分と有機質に富む細粒土分がほぼ同等の割合で構成される。礫はφ5～10mmの亜円礫を主体に最大φ20mm程を混入する。GL-2.9m付近に多量の木片を認める。GL-3.65m以深、火山灰質となる。		
3											
	206.74	2.90	3.90			灰					
4					風化岩 (砂岩) (WR)	褐灰			メタルクラウンビットで掘進可能。 風化・変質が岩芯にまで至り、コアは砂質粘土状～粘土質砂礫状で採取される。 全体に「未～弱」変質の岩片を礫状に残している。		
5											08/10
6											
	203.94	2.80	6.70								
7					砂岩 (S)	淡褐灰			GL-7.0～7.2m間、風化・変質がやや強く、コアは礫混り粘土状を呈す。以深、コアはヘアークラック(密着性亀裂)の発達により、長さ3～5cmの片状～棒状を主形とする。亀裂目には酸化痕が見られ、網状亀裂部での礫状コアには割れ目沿いに細粒土分を伴う。母岩自体は弱風化により、軟岩質である。 岩盤等級区分は「CL級」への区分となる。 GL-10～10.35m間、硬度劣化を認める。		
8											
9											
10											
	200.26	3.68	10.38								08/11

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	1	1	1	3／30	3
1.45					
2.15			1／35	1／35	1
2.50					
3.15	1	1	3	5／30	5
3.45					
4.15	7	9	10	26／30	26
4.45					
5.15	8	9	10	27／30	27
5.45					
6.15	9	6	6	21／30	21
6.45					
7.00	14	16	20／4	50／24	>50
7.24					
8.00	50／8			50／8	>50
8.08					
9.00	50／9			50／9	>50
9.09					
10.15	13	15	22／3	50／23	>50
10.38					

原位置試験

深度 (m)	試験名および結果

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法

室内試験